

久留米

〔March 24, 2014〕

高専通信

第75号

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

卒業生・修了生に贈る言葉 「利他を以て先とす」

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、御卒業・御修了おめでとうございます。入学してから今日までの皆さんの努力と、皆さんを陰に日向に支えてこられました保護者並びに御家族の方々の御尽力に対し、心から拍手をお贈りします。

卒業・修了という人生の大きな節目にあたり、ぜひ一度立ち止まり、高専生活を通じて自分に何が得られたのかをじっくりと考えてみてください。その答えが皆さんの今後の長い人生を支えるバックボーンとなるものです。また、この機会に、高専生活を支えてくれた周囲の人たちへ、感謝の気持ちを言葉にして伝えることも大切です。

さて、皆さんの高専生活の最後の学年では、体育祭の全競技が実行委員会の取組により、予定時刻どおりにピシャっと進行するという、近年の本校の歴史上のマイルストーンとなる一幕があったほか、科学の世界では、南部陽一郎シカゴ大学名誉教授の理論を土台にしてその存在が理論的に予想されていたヒッグス粒子について、50年にわたる実験を経て高い確率で存在が確認され、予想した英国のヒッグス博士にノーベル賞が授与されたり、理化学研究所の小保方晴子ユニットリーダーによりiPS細胞を上回る可能性のあるSTAP細胞(刺激惹起性多能性獲得細胞)が作製されるなどの大きな進展が見られました。

中国大陆から飛来するPM2.5による日本国内の大気汚染問題やアイソン彗星が太陽に接近し過ぎて蒸発・消滅したことなど話題になりました。

また、平成26年(2014)は、お遍路さんの巡礼で知られる四国八十八ヶ所靈場が、空海(774-835)により弘仁六年(815)に開創されて1200年目に当たる年もあります。

空海はマルチ人間で、語学、書、詩、土木技術、建築など多岐にわたり才能を発揮しました。福岡にも縁があり、唐で密教を修得して大同元年(806)に日本に帰国後、京都に移る迄の約一

年半を福岡の觀世音寺に滞在しています。

空海の教えに「菩薩(ボサツ)の用心は皆、慈悲を以て本(モトイ)とし、利他(リタ)を以て先(セン)とす」という言葉があります。悟りの段階にまで達している菩薩の心は、すべて慈悲を基本としていて、自分の悟りを得ること(自利)よりも他人を救うこと(利他)を優先しているという意味です。

企業においても「利他」を経営理念としているものが見られ、京セラの創業者である稻盛和夫氏は「利他の心」を経営哲学とし、「お客様第一主義」を貫きました。

この空海の言葉は、自己利益を優先させることへの戒めですが、必ずしも自己犠牲によって他者の利益を優先させることでは無く、むしろ自己と他者の両方の利益を実現していくことが最善であると解釈することができます。

数学学者フォン・ノイマンらによって構築され、合理的意思決定戦略を分析する数理的手法である「ゲーム理論」で言えば、スポーツや囲碁・将棋のような一方が勝てば他方が敗れるという「ゼロサム・ゲーム」ではなく、お互いに勝者になることが可能な「ノン・ゼロサム・ゲーム」(none zero-sum game)、当世風に言えば、WIN-WIN(win, win)の関係(双方が勝つ)を目指すということでしょう。

更に広い視野から捉えたものに「三方(サンポウ)よし」があります。主に鎌倉から昭和の戦前期にかけて活動した近江国人(滋賀県)の商人(近江商人)の心得を後世に言い表したもので、「売り手良し」「買い手良し」「世間良し」の三方が良いこと、即ち売方と買方の満足だけでなく、その売買によって社会も良くなることが大事であるということです。

これから皆さんが船を漕ぎ出す社会は、グローバル化の激しい潮の流れの中で、なお厳しい経済状況にありますが、皆さんのが「利他」の心を持って、幾多の荒波を越えながら、順風満帆に進まれることを願ってやみません。

卒業生の言葉

高専の自由

機械工学科5年 藤井 大輔

私にとって高専の5年間は、本当に長い月日でした。久留米高専は自由でのびのびと学生生活を送れるところだという人がいます。実際に5年間生活してきて自分もそう感じました。しかし、この「自由」は時として良い側面を見せることもありますが、悪い側面を表すこともあります。5年前に入学したときに同じクラスにいた友達で今、共に卒業できない人もいます。彼らは学校が楽しくなくなり、やめてしまった人もいれば、1年間学校を休学して海外に留学してたくさんのこと経験して1年下になった友達もいます。私は久留米高専にとって大事なことは、この「自由」という言葉をどういう風に解釈するかではないかと思います。私もこの自由という言葉を自分なりに噛み砕いてこの5年間を過ごしてきました。自由であるからこそ、様々なことにチャレンジしてきました。偉い人の講演を聴きに行ったり、高専ではない大学や高校生とディスカッションする場に参加してみたり、様々な分野の学問を触ってみたりしてきました。その結果、自分のためになったかどうか今はわかりません。しかし、この5年間は今振り返ってみるといつも忙しく動き回っていた気がします。自由の意味をどう受け取るかは人それぞれですが、久留米高専に入った以上、自分を高めるためにその時間を使って欲しいと思います。最後になりますがこの5年間、やんちゃな49期機械工学科生を育てていただき、本当にありがとうございました。



仲間と過ごした日々

電気電子工学科5年 日下部 寛

高専で過ごした5年という時間は、とても短くあっという間に過ぎていきました。この5年間の中には、楽しかった思い出や、苦しかった思い出、そしてたくさんの出会いがありました。

高専生活では、授業や実習だけでなく、部活動や寮生活、応援団など、多くの経験をさせてもらいました。その中でも、私の中に大きく残っているのは、陸上競技部で部活動に打ち込んだ日々でした。全国大会という目標の前で、つらい練習やけがで走れず苦しい時間、やめようと思ったことも何度もありました。それでも多くの仲間に助けられてそれらを乗り越え、全国の舞台で楽しく走ることができました。

クラスの仲間と過ごした時間もまた、とても大切なものです。授業を受ける時、実験をする時、遊ぶ時、そして怒られる時、いつもみんなと一緒にいました。いつも笑いが絶えず、楽しいこのクラスのことが好きで、本当に最高の仲間に巡り合えたと思っています。

陸上競技部では中距離ブロック長、クラスでは級長を務めてきましたが、4年時にはこれに寮長が加わり、毎週の課題や実験レポートなどとても忙しい日々を過ごしたことを覚えています。時には押しつぶされそうになり悩むこともありましたが、これらの経験が私を大きく成長させてくれました。

入学した時には大人に見えていた先輩方と同じ年になり、私にも多くの後輩ができました。後輩たちの手本となる先輩、あこがれる先輩になることができたのかはわかりませんが、たくさんのこと伝えたりました。後輩たちには、これからたくさん思い出を作り、悔いの残らない高専生活を送ってもらいたいと思います。

この5年間を思い返すと、語りきれないこと、簡単に思い出せないこと、本当にたくさんの思い出があります。卒業後の新しい生活への期待も大きいのですが、みんなで一緒に授業を受けたり、走ったり、馬鹿みたいに笑ったり、怒られたりできなくなると思うと、少しさみしい気がします。たくさんの思い出を胸に、社会に出て、5年間で学んだ多くのことを生かし、精一杯努力していきます。

私たちのクラスは、これまでの電気電子工学科の中でも、うるさくて厄介と言われたこともあります。最後に、そんな私たちが卒業までお世話になった、すべての先生方、職員の皆様に、心よりお礼申し上げます。そして、仲間たちよ、ありがとう。

卒業生の言葉

高専がくれた夢と時間

制御情報工学科5年 宮原 裕紀

5年間の高専生活は、私が成長するきっかけをたくさん与えてくれました。所属していた剣道部では、2年半の間部長を務め、部をまとめることの大変さ、責任者としての重みを実感することができました。体育祭では応援団に所属し、仲間と協力し合い素晴らしい演舞を完成させることで、今までにない大きな達成感を得ることができました。また、クラスではムードメーカーとして場の雰囲気に気を遣い、今では私自身、場の空気を和ませることに喜びを感じています。

私には、5年間誰にも負けなかったと胸を張って言えるものがあります。それは挨拶です。教室で会う友達に、廊下ですれ違う先生に、全校集会で話す校長先生に、自分から目を見て大きな声で「おはようございます！」と気持ちの良い挨拶をすることができました。

そんな私には小さい頃からの夢があるのですが、高専に入学してから少しずつ自分の夢を語ることを恥ずかしく思うようになっていきました。ですが今では、また自信を持って自分の夢を語ることができます。私に技術の面白さ、美しさを教えてくださった先生方のように、素晴らしい、ユニークな教師になりたいと心から思っています。そして私がそうしてもらったように、多くの子どもたちに夢を与えられたらいいなと思っています。

私がここまで成長できたのも、私が無事卒業できたのも、一緒に励ましあいながら歩いてくれた仲間たちのおかげです。これからは別々の道を進みますが、仲間たちとの苦しかった時間、楽しかった時間はこれからも私の支えとなり、私を助けてくれるでしょう。

4月から大学生として新たなスタートを切ります。まだ回り道の途中ですが、夢に向かって少しずつ近づけている気がします。新たな舞台でも私は私らしく、私にしかなれないような教師を目指して頑張りたいと思います。

最後に、私に夢を与えてくださった先生方、私と一緒に素晴らしい時間を過ごしてくれた友達たちへ、たくさん迷惑をかけてしまってごめんなさい。そして、本当にありがとうございました。

5年間の記憶

生物応用化学科5年 遠藤 喜嗣

私にとって高専で過ごした5年間というのは、非常に足早に過ぎていったように感じます。合格発表の掲示板を確認しに来たこと、入学式でその後5年間勉学を共にするクラスメートと顔を合せたこと、初めての講義でそのスピードに驚き、ノートをとるだけで精一杯だったこと。つい最近の出来事のように、鮮明に思い出すことが出来ます。もう卒業してしまう、ということがいまだに実感がないほどに。

私が高専に進学を決めた理由というのもとてもお粗末なもので、高校をせっかく選べるのならば、自分の好きなものを学んで過ごしたい、という将来の事などはっきり言ってかけら程も考えていないものでした。自分の好きなものを学ぶというのはやはり楽しく、高専での講義というのは専門もそれ以外の科目も100分という時間の長さを感じさせないものでした。

高専生活の5年間で最も印象深い思い出と言えば、やはり工場見学旅行が一番でしょうか。4泊5日の旅行の中で、様々な経験をすることが出来ました。様々な工場や、自分では行くことがないであろう場所も回り、新たな発見も多々ありました。何より楽しかったのは4日目の自由見学。私たちはその日1日をフルに使い、吉本新喜劇を観劇し、鶴橋商店街で焼き肉という豪華な昼食をとり、街を散策するなど大阪を満喫する事が出来ました。おそらくは一生忘れないであろう、そんな大切な思い出です。

素晴らしい思い出だけでなく、私はこの5年間で何物にも代えがたい大切なものを得ることが出来ました。それは、様々な人とのつながりです。

友人や先生方、また、高専生だったからこそ出会えた人々。数えきれないほどの人達と出会い、助けられ、私はここまで来ることが出来ました。

私にとって高専で過ごした5年間という時間は、それそのものが素晴らしい宝物であり、私を形作る大切な“何か”となっています。

書いていて非常に恥ずかしくなってきたので、そろそろ筆を置かせて頂きたいと思います。最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

卒業生の言葉

修了生の言葉

私の高専生活

材料工学科5年 松下 絵夢

5年前の入学式。ドキドキワクワクしながら体育館へ向かい、初めてクラスの皆と会ったときのことを今でも鮮明に覚えています。それが5年も前のことであるなんて信じられないくらいこの久留米高専での過ごした月日は本当にあっという間でした。楽しかったこと、辛かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、たくさんの出来事が次々に頭の中によみがえってきます。クラスの女の子で教室で丸くなつてお弁当を食べたこと、夜須研修で友達が増えたこと、毎回の定期試験がとんでもなく辛かったこと、部活動を通して先輩や後輩ができ仲良くなれたこと、工場見学旅行で深い友達関係が築けたこと、進路で悩んだこと、クラスマッチや高専祭でクラスで一致団結したこと、まだまだ書ききれないほど、たくさんの忘れられない思い出があります。「学生時代の友達は一生の友達」と言いますが、この5年間で一生付き合える友達が出来ました。自分の一生を決める大切なものをこの5年間で得た気がします。そして来る3月17日、私たちは久留米高専を卒業します。この先、私たちの目の前に広がる世界に、不安で身が竦むような思いがする一方で、期待に胸が膨らみワクワクするような思いもします。私たちはこの学校生活で学んだことを胸にそれぞれの進路へと進みます。最後になりましたが、校長先生をはじめ諸先生方、そして両親、本当にお世話になりました。これからもどうか温かく見守ってください。本当にありがとうございました。



出会いが生んだ7年間の思い出

機械・電気システム工学専攻2年 田中 友隆

私が専攻科に入学してから2年が経ち、修了のときを迎えます。本科に入学してから数えれば、実に7年間もこの学校に通っていたことになります。もう高専に行くことも無くなると思うと、ちょっと寂しく感じてしまいます。ですが、自分で選んだ道とはいえ7年間も高専に通っていれば、外の世界への旅立ちに一種の解放感と喜びも感じます。

高専での生活を振り返ると、たくさんの思い出が浮かび、毎日が楽しくて充実していたなあ～としみじみ感じます。その後、卒業研究と専攻科研究論文に取り組んだ三年間が、パッと頭に浮かび、大変だったなあ～としみじみ感じます。せっかくなので、大変だった思い出について書くことにします。

最後の三年間に於いて、私の生活の中心は研究でした。先生の厳しいご指導の下、真剣に研究に取り組みました。毎日遅くまで学校に残って実験をして、解析をして、先生に報告して、怒られ、時には褒められ、なかなか忙しい三年間でしたが、後悔はありません。研究を通して、プログラムが組めるようになり、工具の名前を覚え、測定機器の使い方を覚え、見やすいグラフが書けるようになり、自分のスキルが磨かれたのです。良き師に出会うことができて、自分は本当に恵まれていたと思います。

他にもたくさんの出来事がありましたが、充実した学校生活だった！！と私が心から思えるのは、良い出会いがあったからこそです。人生において、どんな人と出会うことができるのか、ということほど重要なことはありません。私は、この7年間で沢山の素敵な出会いに恵まれました。沢山の出会いから学んだこと、そして生まれた「縁」は、何物にも代えがたい大切な財産です。在校生の皆さんにも、是非「出会い」を大切にして頂きたいと思います。

からの新しい生活でも、専攻科を卒業したという誇りを持ち、専攻科の名を世に知らしめるべく、頑張っていきたいと思います。

修了生の言葉

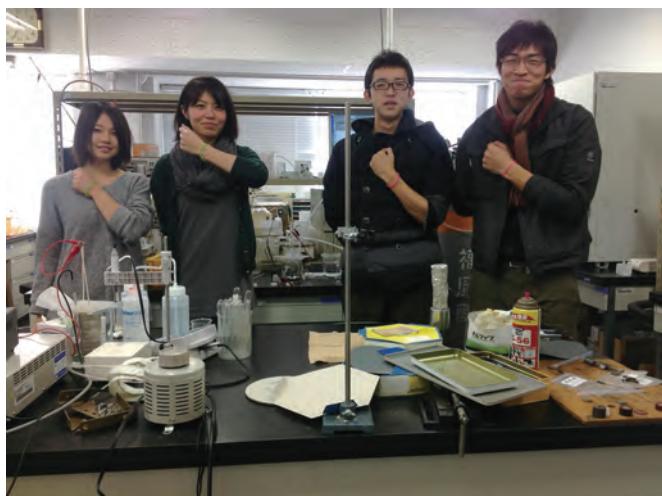
私を作った7年間

物質工学専攻2年 武藤 瑞佳

皆様、ご卒業ならびに修了おめでとうございます。ついに久留米を発つ時が来たなど感じております。材料工学科に入学を決めた7年前を思い浮かべると懐かしい気持ちになります。材料工学科で過ごした5年間は、多くの人々に恵まれた充実した時間でした。一方、第一志望で進学できた専攻科でしたが、初めの半年ほどは後悔の気持ちでいっぱいでした。就職や大学編入で新しい仲間ができた友人たちのことがうらやましくてしょうがなかったです。さらに、本科在籍中は学園行事やアルバイトにいそしんでいたため、勉学に励もうとより研究熱心になりましたが、うまく進まない研究に嫌気がさしていました。なにより、愚痴や不満を言い合える仲間が身边にいないことがとても苦しかったです。やめたい、逃げたいといった苦しい心境でも、「明日まで頑張ったらやめよう、明日まで…」が続き、結局今日を迎えました。

ここまで振り返ると、まったく楽しくなかった専攻科生活のようですが、そんなことはありませんでした。初めの半年こそ自分を見つけられず地獄でしたが、専攻科に進学した他学科の友人ができたり、国内・国際学会に出たり、自分なりに新しい世界を見て、だんだんポジティブシンキングになってきました。悩んだり苦しむことも、生き抜く上では不可欠で重要な感情ですが、あまり思いつめなくとも、楽しんで物事をこなせばいいことをこの2年間で学びました。

来る春、この気持ちを忘れぬよう北の大地で頑張ります。たくさんのこと教えてくださった田中先生、そして、多くの知識を与えてくださった材料工学科の先生方をはじめ、ここまで成長させていただいた久留米高専の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



新任教職員紹介



西山 公貴(にしやま きみたか)

所 属 学生課教務係

職 名 係員

採用日 平成26年1月1日

抱 負 早く仕事を覚え、皆様のお役に立ちたいと思っています。一生懸命がんばりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

趣 味 カメラ、パソコン、おいしいものを食べること



高口 亜喜代(こうぐち あきよ)

所 属 総務課財務係

職 名 事務補佐員

採用日 平成26年1月1日

前 職 久留米労働基準監督署

抱 負 1日でも早く仕事を覚え、財務係として迅速且つ公正な仕事ができるように頑張って参りたいと思っております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、宜しくお願い致します。

趣 味 読書

久留米高専専攻科設立20周年記念講演会

専攻科主事 池田 隆

専攻科は平成5年4月に設立、機械・電気システム工学専攻と物質工学専攻の2専攻でスタートし、以来20年間に564人の修了生を送り出してきました。今年度はこれを記念して在校生の皆さんの進路選択に役立つ企画として、平成25年11月29日(金)後期中間試験の最終日の午後、「専攻科20周年記念特別講演会」を専攻科生1年生と本科4年生全員及び5年生の希望者を主対象として開催しました。

専攻科は、本科卒業後の2年間で、本科(準学士課程)で学んだ内容と併せて学士(大学卒)の学位取得を目指します。機械・電気システム工学専攻(機械、電気電子、制御情報系)、物質工学専攻(生物応用化学、材料系)の2専攻です。これまで修了生の約6割が就職、約4割が大学院へ進学しています。就職先は広範に及び、福岡県内をはじめアジア各地に大規模な拠点を持つ第一精工株式会社にも多くの先輩が就職しています。一方進学者の半数以上は九州大学大学院へ進学しています。

第Ⅰ部では、大学院と、企業を代表して九州大学大学院総合理工学府の寺岡先生と第一精工株式会社の緒方常務取締役様を講師にお迎えしました。

まず九州大学大学院総合理工学府の寺岡先生に「高専学生に期待するもの—大学院組織、教員の視点から」と題しご講演頂きました。総合理工学府は大学院大学で、専攻科修了生が多数進学しています。最近理工系では大学の学部卒業後、大学院へ進む割合が多くなっています。専攻科からの大学院進学は高専から直接、大学院へ入学するので、大学院で高専らしさをより活かすことができるという特徴があることや高専教育で培ったものを失うことなく、大学・大学院教育で新たな知識を獲得し、高専生の良さを失わず、大学卒業生とは異なる人材に育つ期待を述べられました。またグローバル社会での英語の必要性と高専生が前向きな気持ちで英語の力をつける努力をすることの大切さなどアドバイスを頂きました。

第一精工の緒方様は本校機械工学科の先輩です。「5年後の自分を考える」と題して親しく在校生の皆さんにお話し下さいました。「自分はなにをやりたいのか、どのようにしたらそれを達成できるのか」、戦略と計画をたてて行うことが大事だ、とのお話に多くの皆さんがじっと聞き入っていたのが大変印象的でした。「この目標がなければ、いま何をやるのかがわか

らない。結果は偶然の積み重ねではなく、作り出すもの。」ビジョンが持てる人(逆算思考ができる人)となるために、目標を決める、戦略を考える、戦術に落とし込むというステップを踏んで具体的なチャレンジを進めるアドバイスは大変説得力のあるお言葉でした。



第Ⅱ部では、本科5つの学科出身で専攻科を修了した先輩方から体験や後輩の諸君へのアドバイスを頂きました。企業に就職の後、専攻科へ入学されその後博士の学位を取得され、現在企業で活躍されている横溝雄三様はじめ、現在大学院に在学中の井上麻美様、山田直樹様。企業で活躍中の水城健志様、古賀昭浩様、それぞれ企業や研究の現場の様子や、高専時代に印象深かった事柄などを紹介して頂きました。

第Ⅲ部は、パネルディスカッション形式で、経験豊富な第Ⅰ部の先生方を交え、専攻科修了生の方々からの生の声を伝えいただきました。第Ⅲ部終了後においても、修了生と学生ならびに教員とで個別相談が行われ、参加した学生の皆さんには本科、専攻科とも最終年度に向け、進路を考えるのに有益な機会となりました。20周年の節目にこのような講演会を開催でき、講師の方々、本校後援会の皆様はじめご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



第19回高専シンポジウムin久留米を終えて 実行委員会 委員長 馬越幹男(材料工学科) "高専から発進!「科学技術・知の創造」" 副委員長 中嶺裕之(生物応用化学科)

平成26年1月25日(土)、本校において、「第19回高専シンポジウムin久留米」が開催されました。高専シンポジウムは、平成8年1月に当時の鳥井昭美教授(工業化学科、現名誉教授)が西日本地区の高専に声をかけて開催された「西日本地区高専シンポジウム」に端を発していますが、本校での開催は今回で3回目です。"高専から発進!「科学技術・知の創造」"をテーマとし、創造的な仕事をしている卒業生や研究に取り組んでいる学生が大勢いることを念頭に、高専に関係する皆様に高専シンポジウムが学生の研究発表の場であることを改めて考え、認識してほしいという思いを込めました。また、創立50周年を迎えた高専にはこのような雰囲気の中で培われた伝統が流れているということを広く地域社会に訴えたいと、有明高専、北九州高専のご協力を得まして、「からくり儀右衛門に学ぶ福岡県3高専連携テクノロジー」をサブタイトルに、様々な一般公開を開きました。

当日は昼頃から生憎の雨に見舞われましたが、全国の43高専から高専生460名、高専教職員240名のほか、大学、企業等の関係者も含め約750名が集いました。開会式では国立高専機構の小畠秀文理事長に祝辞をいただいたほか、田中久重製作の機械遺産「弓曳き童子」の実演、本校金属工学科(材料工学科の前身)卒の(株)ワールドラボ代表取締役池末明生氏による透明なセラミックスの開発に関する特別講演が行われました。一般の研究発表は過去最高の493件に上り、初めて設けました「ポスター発表賞」に本校から「白色化を用いた錐制約部分空間法」と題するテーマで、制御情報工学科5年森唯人君が選ばれています。さらには、廃石膏ボードのリサイクルに関する研究など六つのテーマについて、高専教員が連携した全国KOSEN研究ネットワーク講演会が開催されました。

一般公開のイベントは図書館などのキャンパス南側で催され、小中学生や保護者を中心に約400名の一般市民の方が訪れて、高専の優れた技術に見入っていました。からくり儀右衛門の「弓曳き童子」や「茶酌娘」の展示・解説、本校の「からくり儀右衛門」の蒸気車を復元した蒸気機関車模型の試走のほか、同時代に有馬藩が奨励した和算の解説も行われました。また、福岡3高専が誇る多彩なテクノロジーの紹介として、模擬プログラミングコンテスト、飛行ロボットの実演、ソーラーボートの展示、北九州高専のセンサーロボット・乗用2輪バイク、有明高専のマイクロバブルによる海水浄化装置の演示、久留米高専の倒立振子、マイクロバブルによるディーゼルエンジンへの応用実演が行われました。

このように1日にしては多くの催し物となり、私ども運営スタッフは嬉しい悲鳴を上げておりましたが、無事、盛会のうちに終えることが出来ました。これも、学校行事として取り上げて下さった上田校長先生を始めとして、手伝っていただきました教職員の皆様、学生諸君のご協力がなければできなかったことです。特に100名の学生諸君のテキパキとした仕事振りに多方面から賞賛の声が上がったことを伝えないわけにはまいりません。

次回の高専シンポジウムは、来年1月に函館高専で開催されることが決まっています。学生諸君は、ぜひ研究成果を携えて参加してください。



懇親会でポスターの説明をする三上扶美さん
(美術部、生物応用化学科5年)



蒸気機関の説明をする徳久真司君(機械工学科5年)

専攻科長期インターンシップを終えて 機械・電気システム工学専攻2年 奥谷 遼

私は、昨年の10月10日から12月20日までの約2ヶ月間、福岡県北九州市にある有限会社ビーでインターンシップをさせていただきました。同社は画像処理や画像認識を利用したシステムの研究開発を行っています。また、北九州の学研都市に位置しているため、同じく学研都市に位置する早稲田大学大学院との共同開発も行っています。

インターンシップでは主に製品に用いられる画像処理・認識アルゴリズムの開発を行いました。最初に画像認識の分野で有名な手法に関する講義を受け、その手法の利点や問題点を明確にしました。また、それらの手法を理解するためには数学の知識が必要であるため、高専の在学中に学んだ数学の知識の復習を行いました。

次に実際に利用される画像に対して既存の画像処理・認識アルゴリズムを適用し、画像処理・認識アルゴリズムの適用結果や画像の認識率を計測しました。この時に痛感したことは実際のデータを見て問題点を考察する重要性です。その手法が論文中で良い性能を示していたとしても、実際の環境で良い性能が得られるとは限らないということを知りました。逆にその手法で問題点とされている事柄も要求される製品の仕様によっては、さほど問題にならない場合もあるということです。

次に既存の画像処理・認識アルゴリズムを適用することにより得られた問題点等の知見をもとに、チーフターの方と議論を行い、製品に用いる画像処理・認識アルゴリズムの開発を行いました。この時、「その方法が理論的な事実に基づいた方法であるか」を重要視しました。また、手法を実装する際には、チーフターの方にソースコードを繰り返し見ていただき、ソースコードの可読性を向上させました。

今回のインターンシップでは、研究活動と製品開発の両方の視点から業務をさせていただき、私自身の研究活動のスタンスを考える良い機会となりました。

最後になりましたが、今回のインターンシップでは有限会社ビーの皆様に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

インターンシップを終えて 物質工学専攻2年 守山 由里子

私は、昨年の10月から約2ヶ月間、福岡市東区にある九電産業株式会社環境部でインターンシップ研修をさせていただきました。この企業は、大気や水質、地熱、土壤、金属材料などに関する受託調査研究・測定・分析・評価など、環境や設備の保全技術に関する業務を行っています。

研修では、一般分析業務である温泉水の成分調査を、計画からサンプリング、分析、評価まで全て行わせていただきました。温泉を所有する旅館と電話で交渉し採取許可を得て、各温泉を回る経路やそれにかかる時間を考慮し、計画を調整するのは思った以上に大変でした。採取した温泉水を評価するために計16項目の分析を行い、得られた化学的データから泉質の分類と貯留層温度の予測をしました。分析に用いた機器は自動で測定する高性能なものばかりで、その原理や仕組みを知ることはとても勉強になりました。

一方で、社員の方々との関わりを通して、学生のうちに身につけておきたいことは専門知識だけではないと感じました。企業は幅広い年齢層の社員で成り立っています。そのため、どのような方にも、論点をすらすことなく自分の意見を伝え、相手の話を理解するコミュニケーション能力が必須でした。また個人の責任の重さは学生と社会人とは大きく異なります。学生は自分の都合に合わせて勉強や研究を進められ、時には達成する内容や期限を変更することができます。しかし企業では業務内容や納期は絶対であり、個人の業務の遅れが全体の業務に支障をきたし、ひいては企業の信用に関わってきます。よって先を見越した計画性や状況に合わせて業務に対応できる柔軟性、チームワークが大事だと思いました。今春から私も社会人の一員となります。今回のインターンシップで学んだことを、これから仕事に生かしていくよう努めたいと思います。

最後になりましたが、多くのことをご指導いただいた九電産業株式会社環境部の皆様には、心より感謝申し上げます。

タイの高校生およびMJII(マレーシア)学生との交流 企画主事補 黒木祥光

10月24日にタイの高校生15名と引率者7名が「タイ王国高校生招聘交流事業～日・タイ青少年次世代リーダーの育成～」の一環として本校を訪問しました。学内見学のほか、プログラミングラボ部20名の学生と倒立振子を用いた共同実験を行い、高専プロコンの入賞作品を紹介しました。また、本校の留学生とも情報交換を行いました。タイの高校生は日本語を第2外国語として勉強しており、留学生を含め、本校の学生とは日本語で会話をしました。

MJII(マレーシア日本工業専門学校)は電子工学を学ぶ3年の専門学校で、卒業生の一部は日本の大学の3年生に編入しています。MJIIの学生12名と教師2名が12月18日に来校し、5Cと4Sの学生、および留学生と交流しました。5Cの学生とはホームルームの時間を利用してマレーシア舞踊の紹介や互いの自己紹介をしました。4Sでは制御工学の授業に参加し、直前に学んだことを本校の学生が説明して一緒に実験を行いました。

海外の生徒、学生の見学先として本校を選んでもらうのは非常に喜ばしいことでもあり、学生同士が不自由を感じながらも意思疎通を試みる経験は、何事にも代えがたいと思います。今後も機会があればできるだけ訪問をお引き受けしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



スケアードストレー方式による交通安全講習会を受けて

学生会 中央執行委員会 総務局長 富安 範行

10月30日、ここ久留米高専で交通安全講習会が行われました。私は小学校から中学校にわたり、何度も講習会を受けてきたので、正直この手の講習会ではビデオを見て先生方に説明を受けて終わっていたため得られる知識は同じようなものであったし、また自分は免許を持っているため交通ルールは知っておりあまり心に残らないものだと思っていました。しかし、今回の講習会にはスタントマンの方たちに来ていただき、事故が実際に起きた時の様子をリアルに再現していました。自転車の二人乗りや右側走行、雨天時の傘さし運転などの危険さを体を張って教えてくださいました。私たちにとって身近な自転車は免許を必要としないため気軽に乗れるものですが、ちゃんとしたルールがありそれを守らないことで、簡単に事故が起きてしまうものであると再認識しました。

また、私が最も印象的であったのは、巻き込み事故の Stantonでした。大型トラックの運転手がカーブの際、隣の自転車に気付かず内輪差によって巻き込んでしまうというものでしたが、巻き込んだ後運転手は気づかず走行を続けてしまうため、自転車はそのまま引きずられてしまうということが実際に見ることでわかりました。また、実際に起きた事故の話もしていただきました。それは少女が巻き込み事故に遭い亡くなったというものでした。また少女は引きずられたため顔面の1/3が削れた状態だったそうです。

今回の講習会で、ルールを守らないことによる制裁を見ることができ、自分勝手なことは事故につながるということが分かりました。交通事故は自分だけでなく他者にも迷惑をかけてしまうものです。久留米高専の学生も事故によって命を落としています。ルールを守ることの大切さを私だけでなく全学生が改めて感じたのではないかと思います。今までそうでしたがこれからも初心を忘れずに安全運転で事故の発端とならないようしたいと思います。



予餞会を終えて

機械工学科5年 山口 大介

平成25年度予餞会が12月14日に行われました。例年の予餞会は、良く言えばしっぽりとした、悪く言えばしょんぼりとした催しでした。そこで今年度の予餞会はファンタスティックな催しにしたいと思い、広報活動とプログラム考案、会場設営に力を入れました。

広報活動に関しては、学内随所に予餞会のお知らせを掲示し、ウェーブホールでテーマ募集とディスプレイを用いた宣伝を行いました。また担任会を通して予餞会開催の旨を各学級へ通達して頂き、代議委員会を通して各学級へパンフレットを数部ずつ配布して頂きました。他にも、某SNSにおいて久留米高専の情報を発信する非公式アカウントに予餞会の日程を告知して頂くなどしました。

プログラムに関しては、例年の予餞会や他の行事とは一味違ったものにするため、大胆な改革を行いました。まず、今年度の予餞会にはバンド演奏の枠を設けませんでした。また、全く新しい形式のコンテストを2つ開催したり、餞別らしいさやかなプログラムとして「在校生の出し物」と「5年間を振り返るショートムービー」を上映したりしました。

会場設営に関しては、当日会場に足を運んでくださった久留米高専生の皆様なら一目でお分かりだったと思いますが、音楽祭や文化部発表会と同様に、ステージや通路等を設営し、暗幕を用いて会場を暗くしていました。例年の予餞会と比較してどうでしたか？なかなかファンタスティックな雰囲気でしたよね。

そして最後にこの場を借りて、予餞会に足を運んでくださった皆様、お力添え頂いた先生方、予餞会開催のために手を貸して下さった中央執行委員会の皆様、実行委員として頑張ってくれた下級生達、予餞会に携わってくださったすべての方に厚く御礼申し上げます。



学生寮成人式

機械工学科5年 友岡 瑞帆

1月16日に、学生寮で成人式が行われました。成人式では、在寮生全員が制服やスーツを着用し、豪華な食事と共に私たち新成人を迎えてくれました。寮長や先生方から祝いの言葉をいただき、成人の仲間入りを果たしたことを実感しました。成人を迎えた私たちの門出に対して、このように盛大なすばらしい式典を開催していただいたことに、新成人一同お礼申し上げます。

私たち新成人は、5年前に少し大きな制服に身を包み、まだあどけなさが残った顔立ちでこの久留米高専に入学し、親元を離れ寮生として生活を始めました。あの頃の私たちは、5年生が随分大人に見え、尊敬の眼差しで見ていました。そんな5年生になるのはまだまだ先のことだと思っていましたが、早いもので卒業まで残りわずかとなりました。この5年間で久留米高専ではいろいろなことを経験させてもらいました。辛いこと、苦しいこと、それ以上に楽しいことがたくさんあって、それら全てがこの久留米高専でしか経験できないことであり、私たちの財産です。寮生活をしてみてその財産が二倍になった気がします。私たちはこれから進学、就職とそれぞれの道を歩みますが、一成人として社会に貢献できるように努めたいと考えております。

今、私たちがここに集い、笑顔で成人式を迎えることが出来たのは、私たちを支えてくれた家族や親族、教え導いてくださった先生方、そしてなによりともに歩んだ友人、仲間たちのおかげです。この感謝の気持ちと高専生としての誇り、そして成人としての決意を心に刻み、これから的人生を歩んで行くことを誓って新成人代表の言葉とさせていただきます。



「今年のロボコン部を終えて」

生物応用化学科3年 浦辺 麗嗣

例年はロボコン部から2チームが出場しますが、今年は卒研生の参加により1チームだけが大会に出場しました。また、学内施設の機械工作工場の改修により、放課後や夏休みの間に工場での作業がほとんど出来ず、部室の工作機械による作業が大半になってしまった為、ロボットの完成する最後まで効率面や精度面において大変な苦労が強いられました。

今年も4月末頃に大会のルールが発表されました。ルール発表後、例年通りの難題な競技課題に対し、困惑が生まれました。しかし、どんな課題に対してもロボコニストはアイデアを生み出して競技を遂行しなければなりません。どのような機構を用いるか、どのような作戦で競技をするかなどを全部員で話し合ってアイデアを出しました。アイデアが出し終わり、方針が決まるごとに設計者による試作の製作が始まりました。その後、試作を実際に動かし、大会で勝つことができるような機構などを決めました。

製作は夏休みに突入したあたりから取り組みました。今年は新しい試みとして流れ作業制が提案され、それに従って作業がされました。この制度にはプラスな面もマイナス面もあり、これを嫌う上級生や意見の違う卒研生との対立が起こり、部内には気持ち良くない空気が流れたことがありました。設計と作業との連携がうまくいかず、スムーズな製作が出来ないときもありました。

ロボコンに限らずチームで1つのものを作り上げるには、皆が楽しんで自分から行動できる環境が大事になると思います。今年度はこのような環境をつくることができず、そのために様々な面でのクオリティの低下に繋がってしまったような気がします。

今年度の活動や大会での反省から多くの改善点を見つけ出せたことにより、ロボコン部は来年度に向けて更なる成長をし、素晴らしいチームに進化するでしょう。皆さんご期待ください。最後に、多くのアドバイスを授けてくださった先生方、技術面で手厚いサポートをしてくださった技術職員の方々、本当にありがとうございました。

● 高専通信第74号11頁に一部誤りがございましたので、以下のとおり訂正するとともに、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

①ラグビーフットボールの開催月及び成績をつぎのとおりに訂正します。

(誤) 第50回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会(冬季)の主な成績(11月9日~12日)

ラグビーフットボール	優勝	全国大会出場(3年連続通算25回目)
------------	----	--------------------

(正) 第50回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会(冬季)の主な成績(11月9日~12日)

ラグビーフットボール	準優勝	全国大会出場(3年連続通算25回目)
------------	-----	--------------------

②平成25年度の就職内定状況を次表のとおりに差替えます

平成25年度(平成26年3月)卒業予定者の就職内定状況

久留米工業高等専門学校

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
JFEスチール株式会社 ANAアートガラスパック株式会社 JXエンジニアリング株式会社 株式会社イシモクコーポレーション NOK株式会社 松山ワイヤー㈱ ジャパンリソリューションズ 東海旅客鉄道株式会社 加速器エンジニアリング株式会社 株式会社日立情報通信エンジニアリング ヤマハ発動機株式会社 三菱重工業株式会社(4名) 福岡酸素株式会社 株式会社カシフジ 株式会社東洋硬化 株式会社小松製作所 株式会社牧野フライス製作所 第一精工株式会社	イーエクス株式会社 東海旅客鉄道株式会社 株式会社日立ビルシステム 株式会社富士通九州システムサービス 九州電力株式会社 東芝メディカルシステムズ株式会社 関西電力株式会社 西部ガス株式会社 中部電力株式会社 中国電力株式会社 JXエンジニアリング株式会社 三菱電機システムサービス株式会社 加速器エンジニアリング株式会社 矢崎総業株式会社 サンリソリューションズ株式会社 大塚包装工業株式会社 株式会社新日本設備計画 東芝三菱電機産業システム株式会社 富士電機株式会社 株式会社新日南 株式会社アバンテ 博多ふ頭 株式会社 富士古河&C株式会社 第一精工株式会社 電源開発株式会社 大阪ガス株式会社 ダイキン工業株式会社 株式会社NTTフィールドテクノ NSウエスト株式会社	第一三共プロファーマ株式会社 三菱プラントエンジニアリング株式会社 株式会社日本ビジネスエンジニアリング サニム・ユニオン株式会社 富士電ネットワークソリューションズ株式会社 TOWA株式会社 NECネッツエスアイ・エンジニアリング株式会社 株式会社サンクライム セイコーエプソン株式会社 株式会社中央エンジニアリング 株式会社イシモク・コーポレーション 株式会社朝日プリントテック アイシン・コムクリーツ株式会社 富士通株式会社 中国電力株式会社 株式会社サイタス・マネジメント 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 出光興産株式会社 ニコン株式会社 NSウエスト株式会社 株式会社日本生物製剤 株式会社東洋新薬 関西電力株式会社	協和醸酵バイオ株式会社 株式会社久原本家食品(2名) 大正製薬株式会社 DICグラフィックス株式会社 昭栄化学工業株式会社 富士電機株式会社 三菱ガス化学会株式会社 東レ株式会社 三洋化成工業株式会社 独立行政法人国印刷局 極東石油工業合同会社 JNC株式会社 住友精化株式会社 シオノギ分析センター株式会社 和光純薬工業株式会社 大日精化工業株式会社 株式会社日本生物製剤 花王株式会社 シスマックス株式会社	株式会社三松 株式会社ディスコ ダイハツ工業株式会社 シオノギ分析センター株式会社 ラサスティール株式会社 JX日鉛日石金属株式会社 株式会社東洋新薬 株式会社九州柴田フォージング 日本モレックス株式会社 三菱電機株式会社 ダイキン工業株式会社 NOK株式会社 東伸銳工株式会社 DOWAサークルエンジニアリング株式会社 新日鐵住金株式会社 旭テック株式会社 丸東産業株式会社 日本ピストンリング株式会社 磯部鉄工株式会社

平成25年度(平成26年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

久留米工業高等専門学校

機械・電気システム工学専攻	求職者 6 男 5 女 1	株式会社NTTデータ 第一精工株式会社、富士電機株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
	内定者 4 男 3 女 1	
物質工学専攻	求職者 5 男 3 女 2	DIC株式会社、住友精化株式会社 日東電工株式会社 旭化成株式会社(2名)
	内定者 5 男 3 女 2	

平成26年度 学年暦

前期

4月		5月		6月		7月		8月		9月	
日曜	曜日	日曜	曜日	日曜	曜日	日曜	曜日	日曜	曜日	日曜	曜日
1 火	春季休業（～4/7）	1 木	火曜授業	1 日		1 火		1 金	一斉休業日(特別休暇)	1 月	前期授業再開
2 水		2 金	火曜授業	2 月		2 水		2 土		2 火	全校集会(専攻科生除く、13:00～)
3 木		3 土	憲法記念日	3 火		3 大		3 日		3 水	
4 金		4 日	みどりの日	4 水	中間試験（～6/10）*	4 金		4 月		4 木	
5 土		5 月	子供の日	5 木		5 土		5 火		5 木	金 合同学校説明会(佐賀)
6 日	開寮（10:00）	6 火	振替休日	6 金		6 日	第2回体験入寮（7/6～7/13）	6 水		6 土	
7 月	入学式	7 水	午後クラスマッチ（本科午前中に午後の授業、午後授業なし）*	7 土		7 月		7 木		7 日	
8 火	始業式、オリエンテーション、クラス写真	8 木	クラスマッチ（本科授業なし）**	8 日		8 火		8 金		8 月	
9 水	前期授業開始	9 金		9 月		9 水		9 土	前期授業終了	9 火	
10 木	～3年定期健康診断（午後）	10 土		10 火	ケータイ安全教室(1年生)	10 木		10 日	定期試験（～9/19、7日間）	10 水	
11 金		11 日		11 水	ケータイ安全教室(2年生)	11 金	九州沖縄地区高専体育大会（体育ミニス）	11 月		11 木	
12 土	TOEIC試験	12 日		12 木		12 土		12 火		12 金	事攻科研究論文発表会
13 日	第1回体験入寮（4/13～4/20）	13 火		13 金	車攻科入学試験(前期)	14 日		13 水	一斉休業日(振替～8/15)	13 土	
14 月		14 水	学生大会	14 土		14 日		14 不		14 日	敬老の日
15 火		15 木		15 日		15 火		15 不		15 木	
16 水		16 金		16 月		16 水		16 土		16 火	
17 木		17 土	後援会総会・保護者懇談会	17 火		17 不		17 日		17 水	
18 金	開校記念日	18 日		18 水		18 金	本科、事攻科授業なし	18 月	九州沖縄地区高等体育大会(夏季)	18 木	
19 土		19 月		19 木		19 土	久留米高専一日体験入学	19 火		19 火	
20 日	公爵授業	20 火		20 金		20 日		20 水		20 土	
21 月		21 水		21 土	海の日	21 日		21 木	特別教育期間（9/22～9/30）	21 日	
22 火		22 木		22 日	金融授業	22 火		22 金		22 月	
23 水		23 金		23 月	夏季休業（～8/31）閉寮（14:00）	23 土		23 火	秋分の日	23 日	
24 木		24 土		24 火		24 不		24 日		24 水	
25 金	1年生合宿研修（4/25.26）	25 日		25 水		25 金		25 土		25 木	工場見学旅行（4年、9/23～9/27）
26 土				26 木		26 土		26 火		26 金	
27 日				27 金		27 日		27 水	福岡3高専合同学校説明会(福岡)	27 土	
28 月				28 水	暴力団排除教育（1年）	28 土	文化部発表会	28 月		28 日	
29 火	昭和の日	29 木		29 日		29 火		29 金		29 月	
30 水	ケータイ安全教室(3年生)	30 金		30 月		30 水		30 土	授業休業	30 日	
31 土						31 木		31 日	開寮（10:00）	31 日	

* 専攻科授業 午前午後入替
** 専攻科平常授業
防災総合訓練（未定）

春季休業（4/1～4/7）
始業式日に新入生は数学診断テスト、英語外部評価テスト
9日午後：1～3年授業なし
車両通学講習会を実施する（日時未定）
新入生合宿研修を受講時数として取扱う

夏季休業（7/23～8/31）
九州沖縄地区高専体育大会（夏季）
(7/11～12、18～20)
18日 授業休業
西日本地区高専弓道大会（未定）
西日本地区高専空手道大会（未定）